NEWS TAMURA

結婚おめでとう記念号

News TAMURA

2002年3月9日

祝ご結婚

目次:

ハイライト:

- 知られざる二人の一面がいまここに暴かれる！
- これが知れたら解雇確実？　特種の嵐。
- 平成の世を騒然とさせた驚愕の結婚秘話がいま明らかに！

知られざる田村林生　瑞枝さん告白

横浜･みなとみらいにて撮影

なれそめ―――

林生と出会ったのは一昨年の９月です。林生が関西空港に地上研修生としてやってきて、８ヶ月間一緒に働きました。女の子ばかりに囲まれて、最初は休憩の時間も休養室のはしっこの方に座って緊張していた林生でしたが、徐々に本性を発揮！その独特のキャラで、みんなに面白がられいつの間にやらいじくられキャラに！最初の印象はなんだか変わった人だなーと。。。今までに出会ったことのない香り！？がしました。

ある日同期を交えて飲みに行き、電話番号を交換して以来毎日電話をくれるようになって、１１月の終わりに初めて２人で遊園地に遊びに出かけました。それからよく会うようになって色々話していくうちに、面白楽しい林生ワールドにはまり始め、意外に普通な所もあってちょっと安心する。今時珍しいくらい何事にも熱く、まっすぐで飾らない人柄に魅力を感じはじめる！？

その後、恋愛観や価値観の違いなどで沢山ケンカをしながらお互いを理解するように。今では１番の良き理解者です！

付き合ってる頃は、和歌山の色んなラーメン屋さん行ったり、南港（関東で言うとみなとみらいのような）や神戸にはほんとに何度も行き、遠くまで映画を見に行ったり・・・。ディズニーランド、石垣島、札幌雪祭り、和歌山や岡山の温泉などなど・・・。けっこう遠出もしました。

林生がアメリカへ半年間の訓練に行く前の５月５日に、訓練から帰ったら結婚しようとプロポーズを受け、去年の１２月２４日に入籍し、年明けから東京での社宅生活が始まる。

お互い天然ボケの為、毎日を面白おかしく過ごしています。

まだ林生を知らない私の友達に林生の面白さを知ってもらう為にも、我が家への訪問お待ちしておりまーす♪

「最初の印象はなんだか変わった人だなーと。。。」
―瑞枝さん証言

入籍直後――大田区役所

田村林生取扱説明書　（広告）

本日は、当社イチオシ商品「The Groom林生」をご獲得して頂きありがとうございます。

この取扱説明は、本商品の東京工業大学時代の行動習性をもとに明記しております。ご使用に際しては、取扱説明を十分に読んだ上でご使用下さい。また、本商品は、現品だけですので決して返品出来ません。ご了承の上、末永く使用して頂くよう、宜しくお願いします。

―――取扱説明―――

- 多少乱暴に使用しても決して故障することはございません。むしろ、優しく使用するよりも、多少乱暴に使用した方が喜びます。
- 大学時代に殆ど講義に出席せず、K屋のパン工場で夜通し働いていた為、昼よりも夜の方が強い習性がございます。ただし、夜通し働いた翌日は、全く使い物にならないことがございますので、夜働かせるのは適量にして下さい。
- アルコールを多量に与えると、通常とは異なる行動をとりますが故障ではございません。一晩眠ると通常の行動に戻ります。一晩眠っても全く治りそうもない場合は、故障ですので、はやめに修理に出して下さい。
- 理工系の大学（東京工業大学）に在学しておりましたが、全く理工系人間ではございません。（商品が在学していた大学は、殆どの卒業生が大学院に進学し、理工系の仕事を選択しますが、本商品は、研究室に所属直後から、全く勉強もせず、文科系就職活動をしていました。その為、研究室の担当教授であったT教授が、この件に関しては、常に哀しい顔をしていました。）
- 1日何回使用しても問題ございません。むしろ、全く相手にしないままでいると、性格が曲がる可能性がございますので、なるべくコミュニケーションをとって下さい。
- 頭の中で混乱が生じると、動揺した顔で、両手が頭に行きますが、故障ではございません。その時は優しくして下さい。
- 動揺すると、すぐに顔に出ますので、隠し事を出来るタイプではございません。
- パンプキン（コンビニエンスストア）を見付けると、アイスクリームを食べたがる習性がございます。その時は、怒らずにアイスクリームを与えて下さい。
- 突如突進してくることがございますが、故障ではございません。むしろ機嫌のよい証拠です。こちらからも積極的にスキンシップを図るようにして下さい。
- 適度にスポーツ観戦をさせてあげて下さい。その際、絶叫しながらモニター上に映し出される選手の真似をすることがございますが、やさしく見守ってあげて下さい。（加藤剛輔）

お互いを語る

○逆切れ
　２人でケンカする時、瑞枝が明らかに悪いようなときで、自分でも悪いと思っているのに自分で怒り出して逆切れするするパターンがよくあった。結局１時間くらいすると認めるんだけどね。

○忘れる事多し
　自分で言ったことをすぐに忘れる癖がある。本人に悪気は無いんだけどね。特に印象深いのはまだ一緒に働いていた時に、夜遅くまでケンカになり最後にきる時に「しんどいから明日は休むかも知れん」と言ったので心配になって次の日に仕事いったほうがええよというメールをうったら「そんなこと言ってな～い!!私、自分の都合とかで仕事を休んだりするのって、世の中で大っ嫌いなの!!それだけは今までしたことないしねー！分かった～？」（平成１３年１月７日のメール）という返事が返ったきた。本人はいまだにこのことは否定しているけどね。

○乗り物に強い
　初めてのデートで長島スパーランドに行ってジェットコースターに乗ったときなんですけどね。こっちは手をつないだり抱きついたりするのを期待したんけど、怖いというかけらが全く無く手をつないだり抱きついたりする計画が失敗したのがありました。
　ただ暗闇は大の苦手。夜景を見ようと山の公園にいったけど途中で怖くてあるけないといっておんぶしたときもありました。

札幌・雪祭り会場
（モノクロ）

北垣瑞枝の素顔　林生さん暴露

○寝てるときは強い
　多分瑞枝の知り合いならご存知だとは思いますが寝相が非常に悪い。毛布を蹴飛ばしたり、右手の肘で相手を追いやり、またたまにイビキもうるさいし。まーいつも朝起きたら３分の２は瑞枝が布団を占拠するのは当たり前だし、この前は自分の毛布を２枚外側に蹴飛ばして寒くなったので俺の毛布をふんだくって寝てたしね。お陰でこっちは朝４時に寒くて瑞枝の毛布を借りてねたからね。

○負けず嫌い
　おとなしそうに見えて何気に勝気なところがある。石垣島に行った時、島でサイクリングする為マウンテンバイクを借りたときにも普通の男でも登れないような坂を俺が登ったもんだから、なにくそって感じでのぼってた。こっちもひーこらして登ったかなりの急坂なんだが、あれはホントに驚いた。

○ヤホーイェ～
　最近の口癖。なんか知らんがこの言葉を多い時には１分間に１０回位も言う。誰か止めてくれ～

「まー俺にはもったいない相手。愛想つかされないようにこれからしなくちゃってとこです。」
田村林生

◇　◇　◇　◇　◇　◇
　まー落としているだけではまずいので瑞枝のよさも書いときます。
　瑞枝は最初はかわいい人だなあとしか思わなかった。でも一緒に働いていくうちに、瑞枝のお客様への笑顔や接客態度、頑張って働いている姿、仲間への思いやり、誰も見ていないところで他の人のために働いている姿を間のあたりにして、心がきれいな人だと惹かれ始めていきました。もちろん俺のほうが積極的にアプローチしたんだけどね。
　付き合ってからは瑞枝は俺にどんなにつらい時でもその笑顔とかわいさで明日への活力のもとになる元気を与えてくれて、一緒にいると安心できる魅力でこの人しかないなと感じるようになりました。
　そうそう意外なんだけど料理が結構うまい。普段の食事だけでなくクッキーとかケーキとかもつくってくれる。まーいつまでもつかは分からんけどね。
◇　◇　◇　◇　◇　◇

　まー俺にはもったいない相手。愛想つかされないようにこれからしなくちゃってとこです。　（原文どおり）

右腕が怪しく絡み付いてる？

善良な市民数十人が被害

北海道東部の石北線で1995年3月、ある車両に乗り合わせた善良な乗客数十人全員が盗難事件の犯人と疑われ尋問をうける事件が発生した。

北海道発永保伝によると1995年3月、当時高校を卒業したばかりの田村林生被告ほか2名は、網走発札幌行の特急列車に乗り込んだ。特急列車は途中、遠軽駅構内で折り返すので進行方向が反対向きに(先頭車両が最後尾に)なるが、これが事件の発端になった。

同被告は旅行前、同行者の反対を押し切り、車窓からの景色を楽しむのだと、長距離路線の列車を乗り継ぐ旅行プランを立てた。しかし、北海道に着くやいち早く爆睡。同行者によると被告が車中で起きていたのは、全行程の2割程度だったという。

特急列車が遠軽駅に到着する数分前、車内アナウンスで「進行方向が変わりますから座席を回転させてください」と告げられた時も、彼は爆睡していたようだ。同行者の2名が、車掌の指示通り座席を回転させた時、気づいていなかった被告に、同様にするよう注意した。

その2時間後に一つ目の事件が起きた。談笑中の同行者２名に対し「俺の財布知らないか？」と、被告は血相を変えて髪の毛を掻きむしって尋ねた。彼は財布を椅子の前の座席ポケットに入れていたという。遠軽駅で座席を回転させれば、当然目の前にあったポケットは、他人の目前にさらされることになるが、爆睡中だった彼はそれに気づかずにまたすぐに眠ってしまったようだ。すでに旭川近くに達していた同列車は、途中いくつかの駅で停車している。被告が財布の紛失に気づいた時には、財布が目の前にあるはずの席には誰も座っていなかった。そして、怒りが頂点に達した彼は、次の大事件を起こしたのである。（自分の招いた災いなのにどうして

怒ったか理由は定かではない）

被告は、同じ車両に乗り合わせた乗客一人ひとりに尋問をはじめた。「ぼくの財布知りませんか！」「こんなかんじの財布をみませんでしたか！」　知るはずもない。尋問中、たびたび同行者のところにやって来ては、「あのオヤジが怪しいんだよ、くっそー。」と怒りをぶちまけた。そこで同行者は「証拠もないのに疑うのは良くない」と何度も彼をなだめたが、彼の耳には届かなかったらしい。その後も彼の尋問は続き、列車が終点の札幌に到着する10分ほど前に、被害者は車両の乗客全員に及んだ。

列車が札幌市に差しかかろうとする時、被告に一人の乗客が声をかけた。その乗客とは、被告が"尋問"中、再三疑っていた初老の紳士であった。「お兄さん、どこまで帰るんだい？神奈川？！　内地まで帰るのに財布がないんじゃかわいそうだから、これ取っておきなさい」　そう言って紳士は、被告に1万円を渡した。疑っていた当人からお見舞いをもらって面食らった被告は、ただ呆然とするばかり。見かねた同行者２名が、その紳士に手厚くお詫びとお礼を言い、被告に紳士の住所を聞いておくよう指示したところで列車は札幌駅に到着した。

北海道旅行の貴重な時間を過ごしていた同車両の乗客全員と同行者の気分をめちゃくちゃにしたまま、被告は列車を降りた。その後警察に盗難届を出したそうだが、被告が財布を取り戻したのか、紳士にお礼の手紙の一通でも送ったのかについて、被告の供述は得られていない。事件後十年近く経過しており、刑事面では時効が成立しているが、今後、旅行を台無しにした事に対して日航裁判所 (田村瑞枝裁判長) で行なわれる民事訴訟では、その後の更正が見られたかが最大の争点となる。　(永保貴章)

ビデオショップのアルバイト店員を拉致

神奈川県海老名市のアダルトビデオショップにて、アルバイトとして働いていた店員が一時拉致された。
店員は無理やり車に乗せられ連れまわされたが、その後無事に解放された模様。

1995年某日午前1時過ぎ、神奈川県海老名市の某アダルトビデオショップで、アルバイトとして働いていた店員Tさん（21）が拉致される事件が発生した。容疑者は、Aさんのバイト仲間で同ビデオ店のアルバイト店員の田村林生（21）。田村容疑者の供述によれば、犯行当日に長年思いを寄せていた女性にふられ、その腹いせに犯行に及んだとのこと。

事件当日、Aさんが仕事を終えてビデオ店のシャッターを閉めようとした瞬間に、田村容疑者が髪の毛を掻きむしり、「ウォーーー！」と叫びながらながら店の中に押し入ってきた。田村容疑者は、「ちょっと付き合ってもらえませんかねぇー！！！」などとTさんを脅し、自分の車にAさんを無理やり押し込んだ後走り去った模様。車中で田村容疑者は、延々とふられ話を一方的に話し続けながら、ひたすら車を走らせ続けた。

Tさんによれば、田村容疑者は静岡県熱海市付近の山中でようやく停車した後、立ちしょんべんをした後に車をUターンさせ、帰り道でも延々話しつづけたとのこと。その後、言いたいことを言い切ってすっきりした田村容疑者は、同日午前5時すぎにようやくTさんを解放した。Tさんは、バイトの疲れと眠気でやや衰弱していたが、元気な模様。 事件が起きたビデオショップの近所に住む同店店長のA氏は語る。「いやー、田村くんですか。昔っから突っ走ったら止まらないところがあるんですよねー。しゃべり出したら止まらないし、車運転すりゃ交通機動隊に止められるまで暴走するし。彼、飛行機のパイロットになったんだって？いやー、俺は乗りたくないね。ははは。」 (高橋章人)

「横倉のカベ」に消ゆ

1996年3月、スキーを始めたばかりの田村くんは、高校時代の友人とともに山形県山形市にある蔵王スキー場を訪れた。蔵王スキー場は、ゲレンデ面積３０５ｈａ、標高差８８０ｍ、最長滑走距離８ｋｍとあらゆるランキングで日本のトップクラスに入るビッグゲレンデ。山頂付近では美しい樹氷が見られることでも有名なスキー場である。

当スキー場の樹氷見物に行く蔵王ロープウェイの付近に、「横倉のカベ」と呼ばれる斜度38度のこぶ急斜面が存在する。実際に滑ったことがある方ならご存知だろうが、この「横倉のカベ」はそこいらのスキー場の「急斜面」とは一線を画す想像を絶する急斜面である。斜面の上から下のほうを覗き込んでも、斜面の途中が一切見えないのだ。遥か下のほうの斜面のふもと付近から、途中でころんだと思われる人々がコロコロと転がり落ちてくるのだけが見える。斜度38度という斜面は体感的にはほぼ垂直、まさに「カベ」である。

そんな「横倉のカベ」のそばまで滑ってきた我々一行。壮大なスキー場で、気持ちも大きくなってしまったのかは定かではないが、スキー初心者の田村くんがひとこと。「カベ、滑ってみませんかねぇーーー」。は？何言ってるんだこいつ。と、思った次の瞬間。「よっしゃ、俺行ってくるわ。うぉーーー！！！」。一瞬のことだった。叫び声を残し、田村君はカベの向こうへ消えていった。斜面の上から、おそるおそる下をのぞきこむが「うぉーーー！！！」という叫び声しか聞こえない。が、ほどなく大柄な男がコロコロと転がり落ちていくのが見えた。大丈夫かなと心配したが、ほどなくその男は立ち上がってこちらに両手を振ってみせた。よかったー、無事だったか。ん？でもなにかおかしいぞ。斜面の下で元気に手を振っているその男は、スキーヤーとは思えないほどずいぶん身軽な格好をしていた。どうやら、左手に持っているストック一本を除いて、転んだときに斜面に忘れてきたらしい。その後、我々一行が田村君のスキー板2本、ストック1本、サングラス1個を回収しながら斜面を降りた（転がった）のはいうまでもない。

ストック1本で「カベ」を制覇した男 ― 田村林生 ― スキーでも暴走する。 (高橋章人)

ドライブで、事故らないのに病院送り？

運転手・田村林生には、事故を起こしていないのに同乗者を病院送りにした疑惑 (伝説) が残されている。

田村林生といえば、知る人のみぞ知る怪ドライバーだ。少なくとも7年前までは。
95年8月、田村林生は友人2人と連れ立って、浜松医大生K(当時) の下宿に遊びに行くことになった。運転手は林生。友人は田村Carに同乗した。初めて林生の運転する車に乗る同乗者は、「デンソン (林生) の運転ならきっと早く着くよ」程度の軽い気持ちで車に乗り込んだのだった。
本厚木駅で乗り込むや否や、交通法規がガラガラと音を立てて崩壊し始めた——

彼の運転を形容するなら、「デジタル運転」。つまり１か０か。アクセル全開と急ブレーキしか知らないのかお前！それに加えてそのハンドルさばき、どうして滑らかに回せないの？左に切ってはすぐ戻し、右に切ってはすぐ戻し。どうみても血が通った人間の運転ではなかった。駅前のかろうじて二車線とれる程の細い道で、あっと言う間に100km/h近くまで加速。信号間際で急制動のドライブが始まった。仕舞には、まさかこんな細い道で100/hも出している車があると思わない地元車が路地から顔を出したのをにらみつけて、「ふざけんなこのヤロー。」　その後、東名高速でどんな運転だったかは、更なる惨劇で明らかになる。
浜松で1日過ごし、夕方にはKの車と2台で神奈川に帰る事に。筆者はKの車、もう一人の同行者Mは林生の車で帰る事になった。
2台がランデブー走行で帰ると思っていたのは、3人だけだった。帰りの東名高速。林生は浜松市内の一般道で誘導していたKの車をさっさと追い抜き、お得意の猛烈加速を再開。K車も140km/hまでは付いて行こうとしたが、片道3車線を思いのままに使い、左から右から追い抜きをかける林生車に呆れ、追うのを止めた。
しかしながら、彼の劇走がほとんど何も利益をもたらさなかったことは、すぐに判明した。K車の2人が快適ドライブを楽しみ、いよいよ厚木ICに到着。IC近くの信号待ちで筆者がふと前をみると、なんと！林生車が5〜6台前に停車中！あとで話を聞いたみると、途中どこにも停車していないとのこと・・・

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

北海道の旅行中、斜里駅でレンタカーを借りた林生を含む3人は、交代で運転しながら道東の自然を楽しむことにした。最初に筆者が、次にKが運転し、地元のユースホステルで教えてもらった名物ラーメンや摩周湖の遠望などを堪能して回った。最後にハンドルをとるは、田村林生。さすがの林生も、凍結している部分の残る路面に気を使って、いつもの暴走はしないだろうとタカをくくっていた2人の淡い期待は、やはり幻想に過ぎなかった。。

運転に疲れて後部座席で休もうとした筆者も、頭部を何度もたたきつけられては眠れるはずがなかった。デジタル運転、山道ではどうなるか？答え。運転手以外はみな左右に飛ばされる。
それだけではなかった。「〇〇鱒養殖場」という立て看板に惹かれて横道に外れた時、同乗者2人の制止に逆ギレしながら完全に凍結した林道を下る林生。あの速度、あの運転で崖の下に転落しなかっただけでもラッキーか？筆者はあの時ほど、ガードレールがあることに感謝したことは、ない。養殖場まで下りきって安心して良いかと思った途端、車はスリップ！直角のカーブを曲がりきれなかったレンタカーは、あと5cmで養殖池に転落寸前でなんとか停車・・・冷や汗と共に運転手は交代した。。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

浜松旅行のあと、結局行きも帰りも林生車に同乗したMは、その直後、原因不明の病気で7年間を越す通院生活を強いられている。（これ実話）　しかも最初の5年間は病名すら分からず病院を転々としたそうである。その病気のせいで、われわれの前に姿を見せられなくなったMの病気について、「デンソン病」ではないかとまことしやかに噂が流れたのは、言うまでもない。病名の判明後、原因はやはりデンソンだったとの見方が強まったと知って、筆者はさらに仰天した。

かれの運転はまた、ある憶測を生んでいる。パイロット志望なのは、空に制限速度がないからではないか？　衝撃波で機体が分解しないこと、事故りそうになったとき乗客を第一に考えてくれることを祈る。（もちろん、林生操縦の機には絶対乗らない）
回復しつつあるMと共に、今回の結婚を祝う。(少しは静かに暮らしていてくれ)　(永保貴章)

不正表示はくれぐれもご注意ください。

「6：30からの出勤なのに、5：30から出没、半径１ｍ圏内をうろうろとし、寝癖のような頭をかきむしっていた。出勤する皆に目も合わさないで挨拶する彼は、これからどんな接客をしてくれるのか？？？？」

恐るべき接客

彼が女性の花園？である、関空の国内線オフィスへ初出勤してきたのは、忘れもしない早番の朝でした。6：30からの出勤なのに、5：30から出没、半径１ｍ圏内をうろうろとし、寝癖のような頭をかきむしっていた。出勤する皆に目も合わさないで挨拶する彼は、これからどんな接客をしてくれるのか？？？？　不安いっぱいの、関空研修の始まりでした・・・

「**いらっしゃいませ！**」威勢の良い、ドスのきいた八百屋の様な挨拶。にらみつけながらお客様を呼び込むがロボットの様なぎこちない動き。その割には、決してお客様と目を合わす事がなく、無闇やたらにコンピューターをカチャカチャと叩き、頭をかきむしりながら、小声で「くそっ」とつぶやく。時には、クレームを言うお客様に殴り掛かりそうになる。そんな彼の前代未聞の攻撃的な接客は、瞬く間に国内線の名物？噂のまとになったのは言うまでもない。その頃、サービス向上運動をしていた私達は、すぐに改善しなければ！と一致団結した。小姑の様に、「な～、な～アイコンタクトって知ってる？」「もっと自然に動いて」「怖いねん」「お客様を睨むの止めてくれへん？」と、事細かに林生君にアドバイスをした。「はあ、はあ」と答える林生君に「返事は『はいっ』」やから！」何て言って差し上げた事も無きにしも有らず？。とにかく、サービスに命を懸ける？私達は必死であった。

小姑になった甲斐もあり、いや、彼が努力家で真っすぐな性格だったからでしょう。叩けばうるさい程響く彼の接客は、めきめきと良くなっていった。正直、そんな彼の態度は嬉しかった。

（本人には、言ってやってあげなかったが）たった8ヶ月の研修、「僕達はパイロットだから関係ない」って私達の仕事をお遊び程度にしか思わない人も中にはいたかもしれない？！。でも、彼はホントに一生懸命、不器用ではあったものの真剣に取り組んでくれたのが、「ヤツらしい」な～と思えます。
そんな不器用な彼が、いつから私達の可愛い後輩「ガキちゃん」に目をつけ、どうしてGETできたのかは謎である！林生君は、一体どんな『恐るべし攻撃』をしたのか・・・今度ゆっくり教えてネ！　(松永治代)

田村林生の千里眼？

１９９７年初旬、新郎田村林生（以下　新郎）が在学していた東京工業大学にて、今後の進路についての議論が我々の主な議題となっていた。

ただ一つ、他の大学と異なることは、理工学系の大学ということもあり、殆どの学生が大学院に進学する為、就職に対して全くインセンティブのない者が非常に多かった。その為、新郎をはじめとする数名が、講義の最中、後部座席に陣取り、R社等から送付された就職関連資料に目を通している姿は、少し浮いた存在であった。当時、新郎はK屋のパン工場で夜通し働いており、講義には殆ど出席していなかった為、就職関連資料に目を通している姿を我々が目撃するのも難しい状況であったことも事実である。ただし、たまに顔を見せたときには、パン工場から頂いた大量のパンを恵んでくれ、我々の貧しい食生活を支えてくれるという献身的な心の持主であることも著者としては付け加えたい。

さて、新郎が就職先として興味を示した職種は金融であった。なかでもアクチュアリーという資格に対して非常に興味を持っており、本気で勉強していたか定かではないが、資格試験の過去問を常に持ち歩いていたことは、筆者の記憶として鮮明に残っている。

金融機関と言えば、その年下旬頃から、金融再編の波が加速し、あれから約５年を経た現在においても、日本の金融環境は依然厳しい状況にある。

そのような中で新郎が絞っていた就職先はY信託銀行とN長期信用銀行であった。

前者については、当時の象徴的な、Y一証券、H拓殖銀行いずれに対しても出資及び融資を行っていたことから、その後、経営難が急浮上し厳しい状況に追いやられた。(現在についても、株価は危険ラインである５０円割れ水準で推移している。) 後者に関しても、その後、厳しい状態になり、多額の公的資金注入後、米国Rウッド社へ譲渡され、現在S生銀行として存続しているものの、営業譲渡時に取り交わされた瑕疵担保条約を巡り、更なる公的資金注入も辞さないとの観点から、存続に対して賛否両論というのが現状である。

新郎が航空大に合格が決まるまで、新郎が内定していたＹ信託銀行の株価をインターネットでチェックしては、一喜一憂している姿が、当時の新郎の特徴的な姿であった。

今になって思えば、なぜ新郎が興味を示した金融機関がことごとく、厳しい状況に陥っていったかに関してはもちろん不明であるが、それら金融機関に入社しなかったことについては、先見の明があると判断してよかったのだろう。

また現在は日本航空業界の勝ち組企業でパイロットの卵として無事就職したことは、大学時代を知っているものとしては、嬉しい限りである。是非、一日でも早く機長になってもらい、筆者との約束 (フライトアテンダンドの紹介)を果たして欲しいと願って止まない。

(大岡山・加藤剛輔)

ぼけぼけ定期テスト　～高槻北高校

瑞枝ちゃんは、しっかり者に見えてかなりの忘れんぼさんなのです。高校2年のあるテストの日。その日のテストは2限目からだったので、学校から歩いて徒歩5分のところに住んでいる私はもちろんギリギリの時間まで寝ている・・・予定でした。

朝8時ごろ、スヤスヤ寝ている私を母が「なんか、瑞枝ちゃん来てるけど！！」と起こすので、『え！？テストって1限目からやっけ？』と飛び起き、パジャマのまま慌てて玄関まで行くと、瑞枝ちゃんが泣きそうな顔で立っていた。「教室行っても誰もおらへんねん (;_;)」「だって今日は2限目からやねん・・」そして、もっと寝ていられるハズの私は急いで支度をし、瑞枝ちゃんは母から無理やりコーヒーを飲まされ、2人でずいぶんと早い登校をしたのであります。そして朝からコーヒーを2杯も飲んだ瑞枝ちゃんは、コーヒーの利尿作用も手伝い、テストが始まるまでに何度もトイレに行き、終わった直後もいそいそトイレに走り、それにつき合わされる私がいるのでした。

と、これだけならば一度くらいなら誰でもねぇ。と思われると思いますが、彼女はこれを2限目からのテストのたびにしでかしてくれたのです。最後のほうは、母も私も慣れたもので、ピンポーンと鳴ると私は母から呼ばれる前に起き、母も私を起こす前に家に招き入れてコーヒーを出すまでにいたりました。

ついこの間、電話で「テストの時間違えてよく家に来てたよねー！！」と言うと、「え？！ほんま？そうやっけぇ？？」何年経っても忘れんぼの瑞枝ちゃんでした。　　（木村友紀）

修学旅行は、そば打ち体験と、おにぎりも凍る雪中行軍。。

修学旅行の写真。
高校時代の瑞枝ちゃんは、写真でわかると思いますが (もちろん今も) むっちゃカワイイ子で、人気者でした (男女を問わず)。けど、瑞枝ちゃんはと言うと、至ってマイペースののんびり女なので、全然気がついていないと思います。男子の間では、担任が写真が趣味だったこともあってクラス写真をよく撮っていたので、瑞枝写真を持っている人も多かったようです。
　私たちの同級生には (別クラスですが) 本上まなみがいたのですが、瑞枝ちゃんの方が本当に人気がありましたよー。でも、彼女は至ってフツーで、それがまた良いところ。面白いし。

府立の高槻北高校では毎年スキーが修学旅行だったのですが、なぜか私たちだけ軽井沢や尾瀬の散策という、地味な旅行でした。

クラスで“そば作り”を体験したりと、今なら楽しめそうですが、17歳の私たちにはあまり興味がもてなかった気が・・・

その中でも思いで深いのは、尾瀬の散策でした。時期はまだ秋(10月頃？！)だったと思うのですが、すごく寒くて・・・

尾瀬は、自然保護のため車では入れず、道も木で出来た木道を歩くのですが、記憶に寄れば、一歩入ったら歩きつづけなければならず、考えただけでしんどそう！！だったのです！途中で何故か雪が降ってきてお弁当のおにぎりが凍りかけていて、みんなで肩を寄せ合い食べた気がします。雪で滑るので景色に見とれている場合でなく、ずっと足元の木道を見つめたままゴールを目指しました。いまでも修学旅行といえばみんなこの話になるほど、辛い思い出です。

（大川真紀）

料理の腕は超一流？

私の知る瑞枝さんは食べるのも好きだけど、なかなかの料理上手です！以前私の家で得意料理のカルボナーラを手際良く作ってくれました。とてもおいしかったですよ～「一見料理できなさそうで料理上手な人を目指している」と彼女は言っていました。私が思うに料理できなさそうには見えないですけどね（笑）きっと今は毎日おいしい料理を林生さんに作ってると思いますよ。

そんな彼女が信じられない出来事をしでかしました！当時朝食にゆで卵を食べていた彼女は前の晩に朝食用の卵をゆでていたのですが疲れていたせいか寝てしまい、起きた時には鍋は空っぽで、なんと！卵は破裂して天井にくっついていたそうです！そんなおちゃめな一面も持ち合わせている瑞枝さんです！

(大門美奈子)

コンセントー会場で骨折？　空　美里さん

コンサート、
周りを見ないと
大惨事？

私と北垣氏は当時、洋楽の趣味がお互い驚くほど似ていて、まだそんなに人気の無いグループの存在まで好みが同じという事で、かなり意気投合し、大学時代は、ザ・コアーズ、を始め、アラニスモリセット、リサローブ、フージーズ、ローリンヒル、ノーダウト等・・・と、一緒によくコンサートに行きました。

あれは忘れもしません、1997年頃？（あれ？！ちょっと忘れてる）の冬。事件が起きたのは、フージーズのコンサートでの出来事。４枚のチケットをゲットした私たちは、お互い当時好きだった？！人を誘って４人でコンサート会場に向かいました（大阪IMPホール）。お天気には恵まれず、４人とも傘を持参しなければいけないという、オールスタンディングのコンサートには少し最悪の状況でした（手がふさがってしまうため）。開演時間までブラブラお茶を飲んだりした後、会場に出向くと、そこはもう、今風のストリート系の若者達で溢れかえっていました。

開場時間になって、警備の人が、あるアナウンスを始めました。「チケットにスタンプを押している方は先に前列にお越しください。」と。見ると、私たちのチケットには輝かしくも４枚ともスタンプが押してあるではないですか！喜んで皆より先に入場し、着いた位置がなんとステージ丸見えの前から２列目！

コンサートが始まりメンバーが出てきたとたん、一瞬ヤバイ殺気を感じました。後ろの人達が興奮して前に詰め寄ってきたのです。一瞬私の頭の中には“コンサート会場にて、客、窒息、失神、コンサート中止！”の文字が！と考えてる間に周りの動きに流されて、私たちの体は恥ずかしくもノリノリの状態に・・・とその時、一人のメンバーが客の波の中に飛び込んで来たと思った瞬間、それはまさに、北垣氏と私の間で、私たちはみごと、その場に倒れこんでしまい、一瞬“もうダメだ”と。何とか難を逃れ、立ち上がり、その後は会場の後ろの方でおとなしくコンサートを楽しむ事となりました。

しか～し、倒れた時に思わぬ出来事が！なんと、ボキボキに折れてしまっていたのです。私のお気に入りの傘が！私の傘だけが・・・

一瞬にして終わったノリノリの夜。骨折したのは私たちではなく、私のお気に入りの傘だったため、ノリノリの北垣氏に免じて、賠償金は請求しませんでした！

和歌山・友が島で撮影

アフロの新入社員！？

私たちの会社･･･？グループでは新入社員は新人歓迎会もしくは何かの宴会の場で芸を披露する風習があります。

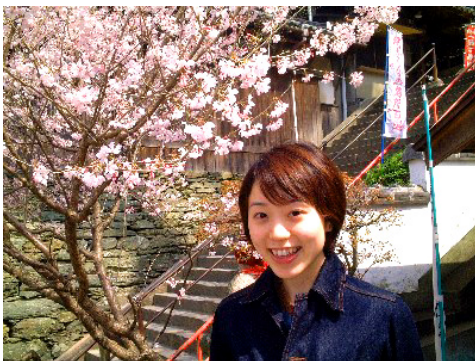
彼女達は旅館に着くやいなや、自分達の部屋に閉じこもり、部屋のドアには「立ち入り禁止」の紙まで貼り、私たちを寄せ付けませんでした。

「出し物の練習してるらしいでぇ～」との噂はたっていたものの何をしてくれるかの情報は入ってきませんでした。

夕食の後、とうとう出し物の時間になりました。食堂には2階から降りてくる階段があり、そこからアフロ姿の彼女達が････。そして、恥ずかしがるような素振りは微塵も見せず、ミッチー、そう、及川光博の曲に合わせて、踊り歌い狂ってました。

あまりにも生き生きと踊る6人の姿にみんな大爆笑！大勢が涙を流して笑いまくりました。もちろんアンコールの拍手は止まず、もう一度踊ってくれることに。

「さぁ、みなさんもご一緒に！」との彼女達の声に全員で踊り狂ったのでした････。また見たいなぁ･･････(^o^)

(川人かおり)

春うらら

あれは、去年の12月。他の部署の男性と交流を深めましょう？との事で、泉佐野のある飲み屋に集まった時の事である。（今思えば、他の部署の男性って言ってたのに林生が紛れ混んでいたのはなぜだろう？）その時のガキちゃんったら、どれだけ日本酒を飲み、お店の売り上げをのばした事だろう？？？

おちゃめなガキちゃん

・・・なぜかあの日は、皆テンション高めであった。ビールをガンガン飲み、事あるごとに一気なんかをし、（もちろんガキちゃんは日本酒に走っていたが）盛り上がっていた。つげばつぐだけ飲んでくれるガキちゃんは、皆に飲まされまくっていた。

そう言えば、そんなにお酒に強く無い？林生はいつもよりさらに目つきを悪くし、皆を睨みつけていた。あれは、ガキちゃんを守る為にだったのかしら・・・。

1時間後には、ガキちゃんの泣き上戸が始まり、泣きながら飲んでいた。さらに30分後には、やたらニヤニヤ笑いながら甘えてきた。飲み始めて2時間後には記憶を無くし始めていた。さて、そろそろお開きにしましょう！って時には、足がもつれ、一人では立てない状態。いつもの様に、親友Yちゃんにどやされ、怒られ、支えられて立っていた。店の外はとても寒く、おしゃれなガキちゃんは、しっかり流行りのフワフワタヌキの襟巻き？をしていた。が・・・タヌキがエビ反り状態でかなり苦しそうであった事は、もちろん彼女は知る由もない。

本人は上機嫌で、誰かれ構わずヒョロヒョロと近寄っては、もたれかかり、甘えていた。（そんなに酔っぱらっても、どうしてあなたはそんなに愛らしいのかしらネ！）

お金の支払いも済み、皆が駅まで歩き出した時には、ガキちゃんは「歩いても進みましぇ～ん！」状態に陥った。この時、酔いから覚めていた林生は、ガキちゃんをおんぶし始めた！「下ろせ！下ろせ～！。股が痛い～！」と叫びながら、林生の首をしめていた。この光景、私の笑いのツボにはまったのは言うまでもない！

駅までの20分程、ホントに笑わせてもらいましたわ、ガキちゃん！駅で林生と別れた後、親友Yちゃんに引きずられ寮まで帰ったらしいが、無事に帰れたのかしら？？？

次の日、皆に謝りながらしっかり仕事をしていた、ガキちゃん。入社７年目の私が、入社間も無い、林生に「あんなに飲ますのは、止めろ！」とクレームされたのは御存知？失敬！失敬！？な話でありました、チャンチャン！

(松永治代)

・・

アメリカ留学記

大学英文科の希望者26人で渡米し、半年間を寒い場所で寒い時期過ごした留学生活のお話です。

◆◆◆◆◆◆

私達は短大在籍中に語学留学プログラムに参加し米国ウィスコンシン州立大学で半年間留学生活を共にしました。大学敷地内にある寮で現地の学生ルームメイトと二人部屋に住み、三度の食事は大学のカフェテリアでとっていました。雪に閉ざされた場所で、最初は英語も？、食物もあわず、スーパーの買物も雪道３０分。でもそんな環境もすぐに慣れ、時間があっという間に過ぎていきました。

一番思い出のある場所はカフェテリア。どんなに眠くても朝からセルフで焼くワッフルを食べる為に走り、夕食は三時間程居座り、途中で新しいデザートがでればおかわりに走る。とにかく食事タイムが楽しかった頃、なぜか日本人留学生の間でオーバーオールが流行り体を甘やかし続けた結果、誰もが例外なく横幅だけは？立派に成長を遂げたのでした。

私のルームメイトは私達を色々な所に連れて行ってくれました。よく行ったのがクラブ（私達の間ではディスコと呼んでましたが）毎週木曜はノンアルコールデイと定められ、学生の私達も堂々と行けるので毎週の様に通いひたすら踊ってジュースを飲むという極めて健康的なクラブ通いでした。

みずは覚えてるかな？　特に私が思い出に残っている一日はハロウィンの日。私達はルームメイトと一緒に手作りの仮装をしてかぼちゃ型のプラスチックの容器にお菓子を求めて大学寮近辺に歩き回りました。（本当は子供だけが〝する事なんですが・・）その後大学から少し車を走らせ、五大湖のひとつスペリオル湖のそばで１０人くらいでキャンプファイヤーをしました。ほそぼそとマシュマロを焼き、寒さに震え上がりながら見た湖の上のうっすらとしたオーロラ、帰り道にみた満点の星空に感動。ここに来てよかった、と思える瞬間でした。

◆◆◆◆◆◆

突然留学の終盤で衝撃的なニュースが飛び込んできました。あの阪神大震災です。テレビでその事実を知り私達は愕然としましたが、それぞれの家族の無事を確認しほっとしました。地元のテレビ局が取材に来たり、事件早々から大学で寄付を呼び掛けてくれたりと彼らにとって神戸という地名さえ知らない人も多い中積極的に関心を向けてくれたのはうれしい事でした。私達は大学を出てからはまめには会えなかったけれど、改めて思えばたくさんの思い出を共有し、自然体でいられる大切な友人。もちろんこれから先もね。

ウィスコンシン州立スペリオル校

（山本仁子）

食い倒れの国コリア？　甲斐香織さん

食べ物を前に、喜ぶみずえ＆私（甲斐さん－右）

「同じだけ食べてるのに、彼女は何故あんなにスリムなの？！」

2日目。この一日は超ハードで、これから夜中に開いている東大門市場の時間まで歩きまくり、クタクタだった。

私は瑞枝ちゃんとは短大の時からのつきあいになります。―――とは言っても2人で買い物に言ったり家に泊まりに行ったりするようになったのは、社会人になってからですね・・・　と言うのは、お互いサービス業で『平日休み仲間』として、よく遊ぶようになったからです。

いろいろ遊びに行った中で、１番の思い出となったのは、激安＆超ハードスケジュールだった韓国旅行です。

まず“激安”ですが、平日出発なのでお得な料金だったと思います。(多分¥29000位！？)　これはサービス業の特権ですね(笑)

次に“超ハードスケジュール”は、2泊3日のツアーだったので、韓国に滞在期間は本当に朝から晩まで動き回ってました。

私と彼女はとくかくっっ!！食べることが大好きで、旅行中もそうですが、いつでも「次、何食べるぅ～?」とか「あれっ、おいしそ～～」とか（笑）

ただ一つ納得いかないのは、同じだけ食べてるのに、彼女は何故あんなにスリムなの？！

韓国に着いたその日の夕食。さっそく石焼ビビンバとチヂミをオーダー。（上）

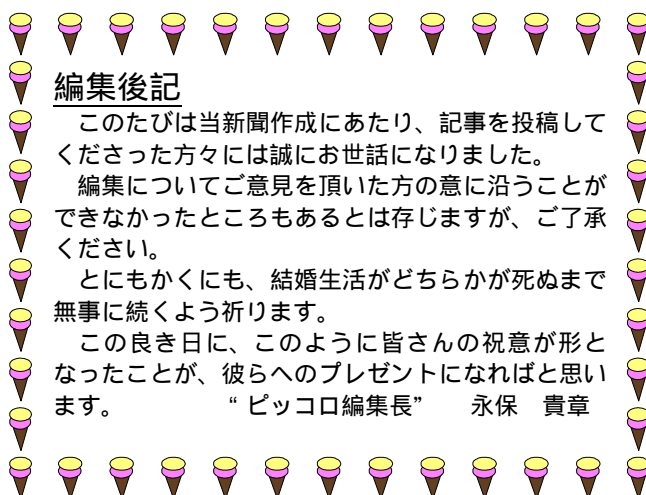
2日目の朝食にて。事前にチェックしていたお粥の店に行く。朝一で行けるように、7時起床だったと思う。（下）

不吉な予感に林生の影？

あれは去年の冬のことでした。私たちバイトで結成したグルメチームDNKTは（姓の頭文字をとったチーム名）ボードへ行きました。行きのバスで私は瑞枝さんと隣の席でした。当時、瑞枝さんは林生さんと付き合い始めた頃だったので当然その話題に花が咲きました。

なれそめやら相性やら聞いているうちに、どうやら2人はボケボケカップルということが判明し、瑞枝さんは、「困っているのだ～」と嘆いてました。しかしあんまりにも2人のボケさ加減で（主に林生さんのボケ話だった気がします｛笑｝）

嘆いているので詳しく訳を聞いていくと「このままいくと長ぁ～～～ぁい付き合いになる予感がしているので余計に困るのだ！」とのこと！！

みごと予感的中！！これから長ぁ～～～ぁい付き合いになるのですね！本当におめでとうございます！今日は2人のボケ拝見。末永くお幸せに！！』　（山本浩子）

編集後記

このたびは当新聞作成にあたり、記事を投稿してくださった方々には誠にお世話になりました。

編集についてご意見を頂いた方の意に沿うことができなかったところもあるとは存じますが、ご了承ください。

とにもかくにも、結婚生活がどちらかが死ぬまで無事に続くよう祈ります。

この良き日に、このように皆さんの祝意が形となったことが、彼らへのプレゼントになればと思います。　　“ピッコロ編集長”　永保　貴章

社

秘